

登録コード:MH141300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	精神看護方法論【20MJ以降】 Psychiatric and Mental Health Nursing Methodology		
担当教員	下里 誠二 木下 愛未		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3年 前期 木曜・1時限 木曜・2時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科211講義室 保健学科212講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	精神保健・医療の現場で生じている、精神疾患の病態と状態像、精神障害における主な障害と生活への影響を理解する。また精神科医療における基本的な治療と看護の方法を理解することで精神障害をもつ人のリカバリーを支える判断の進め方について理解することができる。
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	精神保健の専門職として、精神障害のある人への人権や尊厳を守る看護について必要な感性を磨き、精神障害のある人との共同創造の意義を理解し、共同意思決定についての方法や技術を獲得して、様々な精神保健の場所で活用できる。
	MH25カリ・保健・看護, MH23カリ・保健・看護		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	学習者同士、精神障害当事者、科目担当教員との相互作用を通じて、精神疾患の病態と状態像、それに伴う主な障害と生活への影響、および基本的な治療と看護の方法に関する、幅広い基礎的・専門的な知識・技能を取得する。また習得した知識・技能について、さまざまな状況で精神障害のある人への人権や尊厳を守り、リカバリーを支える看護を考え、活用することができる。 多様な精神障害のある人のおかれている多様な状況に対して、学生自身の内面を省察し、精神障害のある人の視点・精神科看護の視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に、課題に対応していく探究心をもつ。加えて精神障害のある人との共同意思決定に基づき、不確実性に耐えながら課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	精神を病むことによって変化する日常生活行動及び精神症状のあらわれ方、精神科における治療・看護について理解し、必要な看護を理解します。 本授業は、担当教員の精神科病院での精神科看護師としての実務経験を活かして講義を行います。また、本授業では、精神障害のある人たち（精神障害当事者会ポルケ代表理事の山田悠平氏、理事の相良真央氏、精神障害当事者会ひびきの松平隆史氏、松平さやか氏）が、当事者の視点からシラバス作成、授業運営、成績評価に至るまで一体的に参画します。本授業は、1年次後期「精神看護学概論」、2年次前期「精神看護健康論」の内容と相補的に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、3年次後期から4年次前期の臨床実習における重要な基礎知識になります。		
授業計画	第01・02回（4月09日）ガイダンス・三者による目標設定（下里・木下・ゲスト講師） 第03・04回（4月23日）Ⅰ.精神科看護における考え方（下里・木下） 第05・06回（5月07日）Ⅱ.精神科看護に必要な知識（下里・木下） 第07・08回（5月14日）Ⅲ.看護過程の展開：全体像の理解①（下里・木下） 第09・10回（5月21日）Ⅳ.看護過程の展開：全体像の理解②（下里・木下） 第11・12回（5月28日）Ⅰ～Ⅳの復習＋演習の予習 第13・14回（6月04日）[演習]クライシスへの援助①/目標中間評価（下里・木下・ゲスト講師） 第15・16回（6月11日）[演習]SST/観察演習/クライシスへの援助②（下里・木下・ゲスト講師） 第17・18回（6月18日）Ⅴ.看護過程の展開：テーマとプランニング（下里・木下） 第19・20回（6月25日）看護過程の展開発表 第21・22回（7月02日）三者による目標達成度評価（下里・木下・ゲスト講師） 第23回（7月30日）全体まとめ・実習オリエンテーション ※授業アンケートの実施 第24回（8月06日）試験		
授業の進め方	本授業の講義は、パワーポイントのスライド、配布資料、映像資料等に基づいて進めていきますが、授業内容の記憶の定着や理解の深化を目的とした、事前課題・授業内容に基づくワークが含まれます。講義後の事後課題として小テスト、小レポート、自己評価があります。 演習（ディスカッション、介入演習、Social Skills Training等）では、講義内容の体験・実践を含みます。事前課題として、講義内容を十分に復習し取り組んでください。事後課題ではその演習内容を当事者の立場、看護師の立場、その場の第三者の立場、学問的立場から考えることで、援助の在り方を多面的に考究することが求められます。そして学生、当事者、教員が相互尊重の中で授業を展開します。「対話する」ということを重視し		

授業の進め方	ていますので、一方的な批判や要求ではなく相互尊重をしつつ、授業内で能動的、積極的な意見交換を求めます。 ※本授業では精神障害当事者の方々が、当事者団体の活動や精神科病院の入院経験に基づき、当事者の視点から皆さんへの指導・助言を行ってくださいます。これらはこれからの時代に相応しい患者の権利や尊厳を守る看護のあり方について、看護を提供する側とは異なる視点から考察する貴重なものと考えています。当事者が体験を語ってくれることがありますが、なんでも話してくれる単なるサンプルではありません。当事者から話を聞く姿勢そのものが本授業の目標達成に関わります。
テキスト、教材、参考書	テキスト： 1) 標準精神医学（医学書院） ※精神看護健康論（2年次専門必修科目）のテキストです。事前課題で使用します。 参考書： 1) パーフェクト臨床実習ガイド精神看護実習ガイド 第2版（照林社） 2) エビデンスに基づく精神看護ケア関連図 改訂版（中央法規） 3) 三木那由他. 言葉の展望台. 講談社 4) 谷川嘉浩, 朱喜哲, 杉谷和哉. ネガティブ・ケイパビリティで生きる 一答えを急がず立ち止まる力, さくら舎 5) 下里誠二・木下愛未編. 精神医療における暴力とケア. 金剛出版 その他、随時紹介します。
成績評価の方法	講義・演習の参加状況と課題の提出状況、講義後の小テスト、小レポートおよび期末試験の結果に基づいて総合的に成績を評価します。 総合的評価の配分は、 講義・演習の参加状況20%（教員による評価10%、当事者による評価10%）、提出物（小レポートを含む）30%（教員による評価15%、当事者による評価15%）、小テストを10%、自己評価10%、期末試験を30%とします。 講義・演習の提出物は、その回の内容に関連したテーマが設定されます。 毎回の小テストは、その回の授業の講義内容の中から出題されます。 期末試験は、60点以上を合格とします。
成績評価の基準	講義の提出物、演習、小テストおよび期末試験による成績評価の基準は、以下の通りとします。 90－100点：秀、80－89点：優、70－79点：良、60－69点：可 毎回の提出課題については小レポートを提出すること、また課題については記述の内容、演習の内容については、授業で示した基本的概念での最低限の内容であれば、「水準にある」、授業で示した基本的な概念を検討した上でやや複雑な内容を含んでいれば「やや上にある」、授業で示した具体的な概念に加え自身で調べた内容を含んでいれば「かなり上にある」、授業で示した概念に自身で調べた内容を含み、そこに複雑な内容を含んだ検討が加えられていれば「卓越している」と評価します。 小テストおよび期末試験については、授業で示した基本的概念と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、臨床に即したやや難しい応用問題が解ければ「卓越している」と評価します。
事前事後学習の内容	【事前課題について】 毎回、授業終わりに、次回までに調べてくるべき予習（事前学習）内容について説明をします。 【事後課題について】 終了時にeALPSに課題を提示します。 本授業の単位習得には90時間の学習が必要であるため以下のような学習時間を必要とします。 授業時間46時間（2時間×23回）＋事前事後の学習時間44時間（2時間×22回）＝90時間
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	精神科看護では答えの出ない状況に直面することがたくさんあります。不確実性に耐えることは、より分からなくなるということでもあります。しかしそれは「できない」「わからない」のではなく、皆さんの思考が深まるための大切なプロセスです。この授業で学習者同士、当事者、教員とで相互に伝える・学ぶ体験を通じて、皆さん自身の内面が豊かになっていくプロセスを楽しんでもらえたらと思います。 精神障害当事者やゲスト講師による講義・演習を予定しています。当事者やゲスト講師の都合により日程が前後することがあります。 質問等については教員までご連絡ください。当事者の方と直接コンタクトを取りたいという個別の対応には応じかねますが、教員を介しての質問は可能です。 下里誠二 sshimos@shinshu-u.ac.jp 木下愛未 akinoshi@shinshu-u.ac.jp 事前にご連絡のうえご相談ください。 保健学科中校舎4階 下里誠二研究室